

はじめに 北海道、そして十勝の分かれ方 … 「釧路国」だった足寄郡

● 北海道の移り変わり

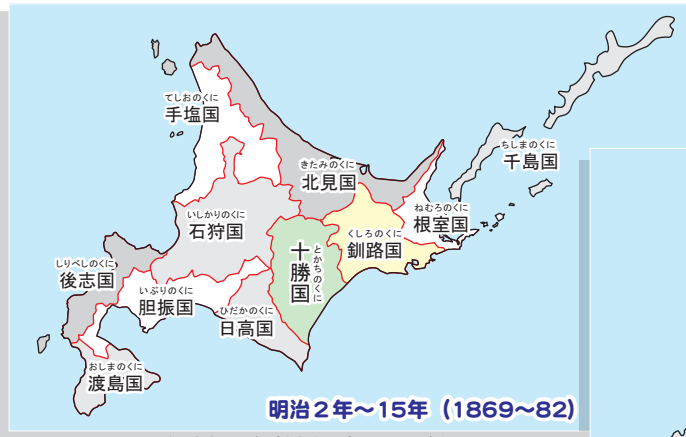
江戸時代の北海道は南西部（道南）の一部（和人地）をのぞいて、ほとんどがアイヌ民族の土地（蝦夷地）でした。アイヌ民族は野や山をだれかの「所有」とはせず、植物や動物をとって生活を

支える場（イオル）として「利用」していました。和人は、蝦夷地を「場所」に分け、それぞれの海ぞいに拠点を置いて交易を支配しました。

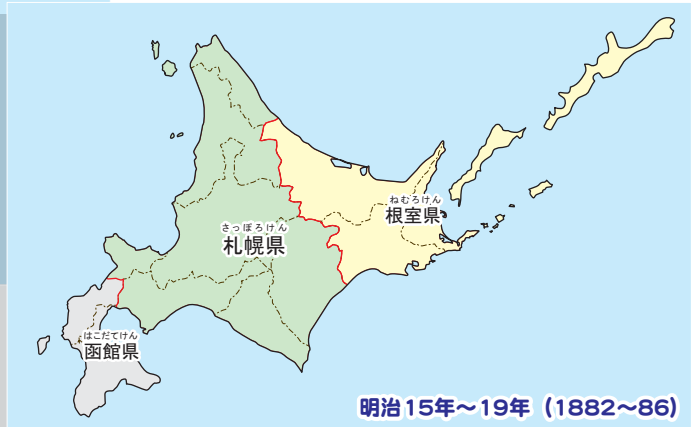
明治時代に入って北海道全体が日本国の領土とされ、和人による支配や管理が内陸にもおよび、開拓が進みます。和人の移住や開拓の進みぐあいによって、北海道の分け方は変わっていきました。



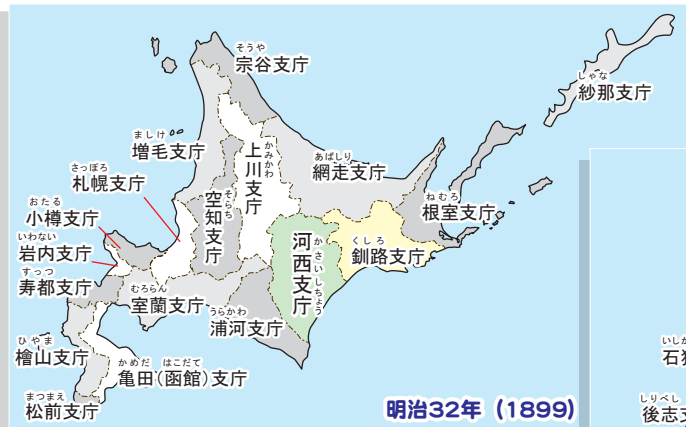
江戸時代、北海道は東西（太平洋側と日本海側）の「蝦夷地」と「和人地（松前藩）」に分けられ、交易支配のため「場所」という区分があった。（→p137）
 （『北海道場所請負制度の研究』・『アイヌの歴史と文化Ⅰ』より、改変）



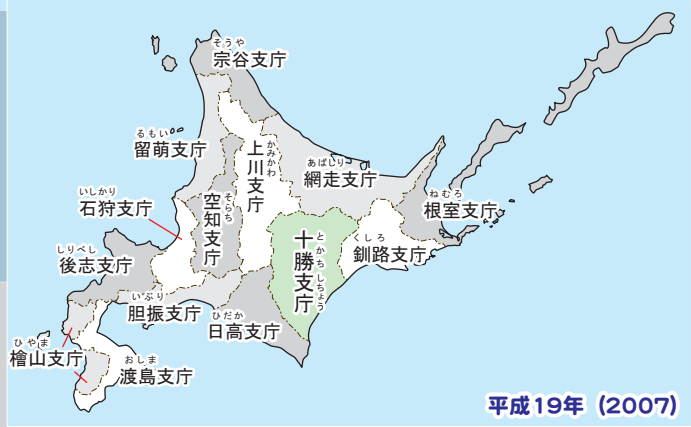
明治2年(1869)、開拓使は松浦武四郎(※1)の案をもとにして、蝦夷地全体を「北海道」とし、11国(86郡)に分けた。足寄郡は釧路国に(※2)入れられた。十勝国は、日高国の浦河支庁や、札幌本庁(浦河ほか十郡として)などに管理された。



明治15年(1882)、開拓使はなくなり、北海道は3つの県に分けられた。十勝は札幌県にふくまれた(足寄郡は根室県)。この「三県一局時代」は4年で終わり、明治19年(1886)、北海道全体を北海道庁(札幌)が管理することになった。



明治20年(1887)、十勝国は、浦河郡役所(浦河町)から釧路郡役所(釧路市)の管理となる。明治30年(1897)、北海道庁は郡役所をなくし、18支庁を設置した。十勝は河西支庁の管理となる(足寄郡は釧路支庁)。図は明治32年(1899)のようす。



昭和7年(1932)、河西支庁は十勝支庁となる。昭和23年(1948)、足寄郡は十勝支庁管内に入る。図は、平成19年(2007)現在のもの。14支庁ある。

※1 松浦武四郎(まつうらたけしろう)：幕末の探検家(→p142)。明治2年(1869)開拓使蝦夷開拓御用掛(かいたくしえそごようがかり)、さらに開拓判官(かいたくはんがん)になるが、翌年、開拓使のアイヌ政策に失望し、職をやめる。

第1章 十勝の平野と川がてらわのぼつ
 第2章 先史時代と川
 第3章 アイヌ文化と川
 第4章 十勝開拓と川
 第5章 発展、今、そして未来へ
 用語
 さくせん

● 十勝の移り変わり

明治2年(1869)に、北海道が11国86郡に分けられた時、十勝は「十勝国」とされます。ただしその時、今の足寄町の東部と陸別町のほとんどは、となりの「釧路国」にふくまれました。十勝川流域の一部が十勝ではなかったのです。この状態は昭和23年(1948)まで続きます。

十勝国は、さらに7郡(51村)に分けられていました。明治13年(1880)には、茂寄(広尾町)と大津(豊頃町)

に戸長役場が置かれ、この2つの役場で十勝国を管理しました。

開拓が進むにつれ、内陸にも戸長役場が設置され、その管理する範囲から、新たに村が決まってきました。

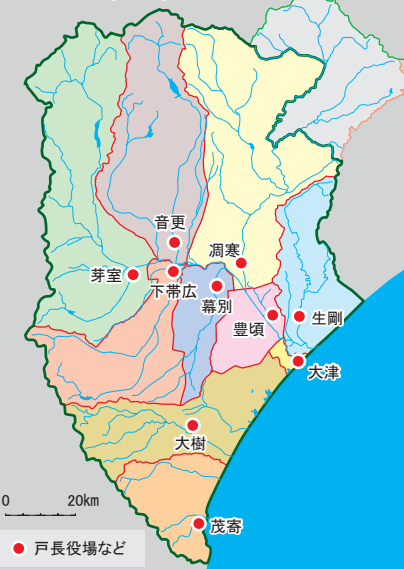
やがて、議員を住民が選ぶことのできる「二級町村」、そして町村長も町村会の選挙で選べる「一級町村」となり、独立や合併を何度かおこなって今の形に近づきます。

明治13年(1880)の十勝



明治2年(1869)、十勝国は7郡51村に分けられたが、足寄郡は釧路国に入れられた。明治13年(1880)、「戸長役場」が茂寄(今の広尾町)と大津(豊頃町)に置かれ、十勝国を管理した。

明治34年(1901)の十勝



明治34年(1901)までに、下帯広、幕別、大樹、洞寒(今の池田)、豊頃、生剛(浦幌)、芽室、音更に戸長役場が開かれた。翌年、帯広が二級町村制(大正4年には一級)による町となった。

大正4年(1915)の十勝



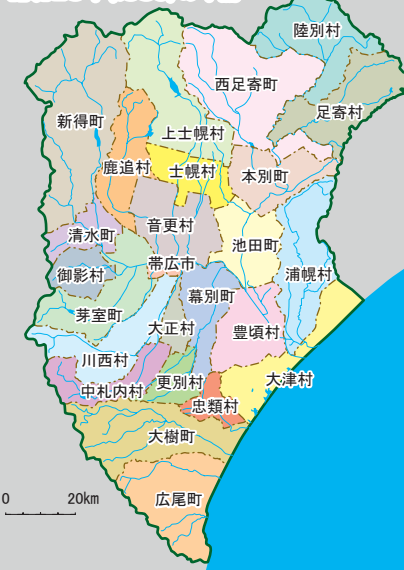
戸長役場ごとにまとめて、明治39年(1906)には茂寄・大津・生剛(のちに浦幌)・豊頃・洞寒(川合)・幕別・音更・芽室、大正4年(1915)には大正・本別・人舞・屈足の各村ができた。

昭和8年(1933)の十勝



大正10年(1921)以降、西足寄・川上(土幌)・鹿追・御影・川西・大樹・上士幌がもとの村から独立する。また、名前を変える町村や、村から町、町から市になるところも出た。

昭和25年(1950)の十勝



その後も町となるところがある。新たに、中札内村、更別村、忠類村が独立する。昭和23年(1948)には、陸別村・足寄村が十勝支庁管内に移り、今の十勝の形となる。

平成19年(2007)の十勝



昭和30年(1955)以降、町村の分割合併が進む。平成18年(2006)、忠類村が幕別町に合併し、十勝は1市16町2村となった。

注：川については、すべての図に今の流れが入れてあります

※2 釧路国に(くしろのくにに)：足寄町市街近くには、利別川にかかる「両国橋(りょうごくばし：国道241号)」がある。十勝国と釧路国の二つの国(両国)をつなぐことから、この名がつけられたという。

※3 十勝川流域(とかがわりゅういき)：十勝川に水が流れこぶ地域。今の足寄町や陸別町の水は利別川に流れこみ、利別川の水は十勝川に流れこむ。

第1章 十勝の平野と川がでる理由

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、今、そして未来へ

用語

さくいん